

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	40762000452
法人名	社会福祉法人 全和会
事業所名	グループホーム わかば
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市太郎丸499番地1 (電話) 0948 - 24 - 7222

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	12月14日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 960円			

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.1歳	最低	64歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松口循環器科・内科医院 / アイ歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームわかば」は、住宅地の一角に立地しており、近接して田畑が広がる静かな環境を有している。グループホームの造りは中庭を中心に共用空間が2ヶ所あり、のびのびと過ごせる空間となっている。施設長や職員がユーモアのある方が多く、入居者と職員は家族的な関係を築き、笑いや話し声が絶えないグループホームである。施設長は地域密着型サービスの役割を果たしたいと考え、地域の高齢者の「かけこみ寺」として、地域のニーズに対応できるグループホームを目指して取り組んでおり、特に地域との関係に力を入れている。開設3年目を迎え、職員の力量や運営も基盤が整った段階にあり、今後は、地域との関係はもとより、職員の研修にも積極的に取り組みたいと考えている。今後は更に地域密着型サービスとしての充実が期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価では、洗剤の管理・会議録の作成・家庭的な玄関周りの演出など改善課題として指摘を受けている。その結果をふまえ、管理者・職員共に改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、まず数名の職員で話し合い、前回の自己評価と比較し、改善できたことなどを振り返りを行っている。また、自己評価は、日頃のケアの反省を含め、前回よりも厳しく評価を行い、更にサービスの質を高める努力をしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、地域との関係を高める場として、地域密着型サービスとしての役割などを説明し理解していただける様に取り組んでいる。日常的に地域の方は気軽に訪れ、相談できる関係を築くために情報発信を行っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族に意見や苦情などを言っていたり関係づくりに取り組んでおり、運営推進会議などの機会を活かし、家族が意見や苦情を言っていたり様に努め、また、外部の方々と一緒に意見交換などを行い、運営に反映していきたいと考えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議の場を活かし、家族や地域の方に理念を理解してもらえる様に取り組んでいる。近所の方より、収穫した野菜を分けていただいたり、待ち合わせの場所に使っていたり、子ども達が犬を飼っているの遊びに来たりと多様な場面で交流がある。今後は、広い駐車場の敷地を活かし、地域の方に協力・参加を呼びかけ、夏祭りや運動会を企画したいと考えている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしてのグループホームの役割を理解され、地域の中で高齢者ケアの【かけこみ寺】として、地域のニーズに対応していきたいと考えており、地域密着型サービスのあり方に関して行政に提案するなど、地域との関わりを考えている。理念において、その内容を示す文書の検討が求められる。		日頃の業務の中で地域との関わりを高める努力をされており、理念にその役割を文書化することが必要である。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや会議において、理念を振り返り、理念にもとづいた支援ができるように、職員間で理念の共有化を図り、実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の場を活かし、家族や地域の方に理念を理解してもらえる様に取り組んでいる。近所の方より、収穫した野菜を分けていただいたり、待ち合わせの場所に使っていただいたり、子ども達が犬を飼っているの遊びに来たりと多様な場面で交流がある。今後は、広い駐車場の敷地を活かし、地域の方に協力・参加を呼びかけ、夏祭りや運動会を企画したいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、まず数名の職員で話し合い、前回の自己評価と比較し、改善できたことなど振り返りを行っている。また、自己評価は、日頃のケアの反省も含め、前回よりも厳しく評価を行い、更にサービスの質を高める努力をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域との関係を高める場として、地域密着型サービスとしての役割などを説明し理解していただける様に取り組んでいる。日常的に地域の方は気軽に訪れ、相談できる関係を築くために情報発信を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月2回、介護相談員の派遣を受けている。地域密着型サービスの役割を果たすために行政側に提案するなど情報交換をはじめ連絡はよく取っている。ケースワーカーとの連絡も密の取り合っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	これまで、権利擁護の関係の制度を必要とする入居者がいなかった為、制度に関する学習や支援などは行っていない。		権利擁護は管理者・職員共に、必要に応じて情報提供することが求められ、症状によっては入居者や家族に早い段階からの情報提供が求められる。行政などの権利擁護の研修の情報を入手し、研修していくことが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に毎月家族に報告している。面会や電話連絡が取れる家族には、その都度報告している。遠方の家族には、手紙・写真・金銭状況などを送っている。今後は、わかば便りなどを季節ごとに発行し、状況報告ができればと準備中である。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に意見や苦情など言っただけの関係づくりに取り組んでおり、運営推進会議などの機会も活かし、家族が意見や苦情を言っただけの様に努め、また、外部の方々と一緒に意見交換などを行い、運営に反映していきたいと考えている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は2ユニット全体の入居者との関係を高めており、職員の異動などがあった場合は、他の職員が寄り添える様に日頃のケアの中でなじみ関係に配慮した取り組みを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	年齢・性別は問わず、人柄を重視している。能力に応じた適材適所の人事配置を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の対する人権尊重のために、必要な場合は、管理者が職員に対して、職員の行為をその場で指摘し、何が悪いのかを理解してもらうように努めている。全職員が「認知症高齢者にとっての人権とは」を学ぶ機会を設け、共通の理解を持たれることが求められる。		認知症の高齢者の人権を学ぶ機会を設け、職員の理解を高め、更に質の高いケアを目指されることが期待される。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	開設3年目を迎え、日々のケアや運営面の基盤ができ、これから研修の充実を図りたいと考えている。職員の経験年数や能力に応じて、研修を段階的にすすめていきたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同法人内で多様な高齢者ケアの事業を展開しており、祭りや活動など一緒に参加し交流を図っている。今後は、他のグループホームとの交流や情報交換の機会を作り、サービスの質の向上に取り組むことが求められる。		他のグループホーム(同じ法人ではない)との交流や情報交換など、接点を持つ機会を作り、相互訪問などサービスの質を高めることが期待される。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	見学や体験入居など、グループホームの環境に親しんでいただき、暮らしていけるかを見極められるように支援している。また、慣れない場合は、環境に適應できるように工夫し、入居できるまでを支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	グループホームの近くに入居者の家の畑があり、入居者の了解のもと、入居者と職員が収穫を楽しみに畑仕事を行っている。また、中庭にも菜園があり、ゴーヤや春菊・ネギなどを育てている。日々の暮らしの中で、畑仕事や料理の下ごしらえ・洗濯物たたみ・掃除など、入居者の能力を活かした取り組みを行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の対話の中で、入居者の思いや意向を受けとめ支援しているが、アセスメントに入居者の生活歴・生育歴の記録が少なく、「何が好きなのか、どんな仕事かしていたのか」など、更に入居者の思いや意向を把握するための情報収集が必要である。家族の協力を得るなど入居者の全体像をつかみ、ケアに活かされることが望まれる。</p>		<p>日々のケアの中で、「気づきノート」など職員が気がついたことを書きとめ、時に総合的にチェックし、入居者の状態把握に努めることが求められる。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画に長期目標と短期目標があるが、短期目標のサービス内容について、日々のケアの中で実施できているかどうか、確認していくことが求められる。</p>		<p>短期目標にもとづいたサービスが、日課の中で実施できているかを日々確認し、その効果を評価していくことが求められる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度、介護計画の見直しを行っている。家族の意向は、連絡を取り、意向を反映できるように努めている。状態変化があった場合には、状態に応じた介護計画の作成を行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人のスケールメリットを活かし、同法人のグループホームと1泊旅行に行ったり、夏祭り・餅つき大会・演歌祭りなど合同で主催し、楽しんでいただける企画を積極的に実施している。また、同法人の近郊のデイサービスが休みの日曜日には、デイサービスのカラオケルームを借りて楽しむなど多様な取り組みを行っている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者のかかりつけ医の希望を尊重し、かかりつけ医の受診を支援している。また、協力医療機関の往診も毎月、定期的に行われ、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	訪問看護の協力体制があり、重度化や終末期における医療連携ができています。入居者や家族の意向があれば対応していく方針です。今後は、看取りの対応指針や同意書など書類の整備を行うことが必要です。		医療連携の体制があるなど、環境は整っているが、看取りの対応指針や同意書など書類を整備することが求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	言葉かけは、人生の先輩として「名前呼び、きちんとした言葉で話す」ことを指導し、状況に応じて注意している。記録などの書類は事務所で保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	毎日、午前11時から体操やレクリエーションを行い、多くの入居者が楽しみに参加している。その日の気分や体調で参加したくない場合は、そっとしている。入居者の意向を尊重した個別処遇に今後も力を入れていく方針がある。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	朝食はパン食かご飯食が選べるようになっている。また、おかげもその都度、食べれるように準備している。食事は入居者の楽しみの一つとして捉え、目にも楽しく美味しく食べていただく様に工夫している。今後は、更に食事のひとつときを入居者と職員が楽しむことができる様に、共用空間を広くする工事を計画している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的に水・日曜日以外は、毎日でも、希望に応じて、ゆっくり入浴を楽しんでいただける様に支援している。夏はシャワー浴など状況に応じて支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	誕生日には、入居者の食べたい料理を用意している。お墓参り・美容院など、入居者の張り合いや喜びにつながることは、積極的に支援するように努めている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	外出の機会を毎月2、3回計画している。季節に応じて、あじさい見物・菖蒲見物・夏祭り・りんご狩り・コスモス見学・紅葉狩り・みかん狩りなど外出を行っている。日課として、散歩や買い物を楽しんでいただく様に支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	夜間以外は、鍵をかけず、日中は常に自由に出入りできるように支援している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	定期的に地域住民の協力を得られ、防災・避難訓練を実施している。夜間の緊急時には、隣りのタクシー会社が協力していただける体制がある。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食材はカロリー計算された業者の食材を購入しており、また、職員に栄養士があり、栄養バランスや摂取カロリーを把握している。病歴などに応じた食事支援も行っている。水分は、食事やおやつの際に摂取していただいているが、500ccのペットボトルを持っていただき、水分摂取を把握している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は中庭を挟んで2カ所に分かれている。玄関を入るとホテルのロビーの様なゆったりとした空間が広がり、ソファが置かれ、共用空間として、くつろげる様に工夫されている。ダイニングは中庭を挟んだ向かい側にあり、お互いの空間での過ごし方がわかる様になっている。両方から中庭の緑を楽しむことができ、居心地の良い空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、どの部屋も棚があり、テレビが置かれている。冷蔵庫や仏壇も持ち込まれ、思い思いの過ごし方ができる様に支援している。居室と居室の間にも小さな棚が設置され、季節の花や飾り物が置かれ、暮らしを温かく豊かにする演出が素晴らしいものとなっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			